

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年3月5日

【評価実施概要】

事業所番号	2272100311
法人名	有限会社 INB
事業所名	グループホーム「いっしょに暮らそう」
所在地 (電話番号)	富士宮市杉田1020-2 (電話) 0544-21-1780

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成19年8月23日

【情報提供票より】(19年8月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	16 人 常勤 8 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 9.5 人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造(準耐火)造り	
	2階建ての1階 ~ 2階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 15,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,500円

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	70 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	南富士病院、阿南胃腸外科医院、桑原歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、閑静な住宅地で自然に囲まれた場所に開設されている。地域から期待を受けて開設し、5年目を迎えるが、既に地域に溶け込み、まさに地域に根付いたホームとなっている。常に、今まで以上のより良いサービス提供を考えており、管理者をはじめ職員の意識も高く、質を高めるために、内部研修の充実を図るとともに、外部研修にも積極的に参加している。利用者一人ひとりの充実した生活に結びつけるためであれば、何事にも取り組もうとするホームの姿勢があり、利用者の生活の幅が広がってきている。利用者及び家族のホームへの信頼も厚く、ホームとしても利用者と家族の絆を大切に考えているので、家族の訪問も多く、職員とも顔なじみの関係が築かれている。利用者本位を念頭に、様々な活動や取り組みが行われているので、理想のホームとなることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	定期的に取り組んだ評価結果内容は全ての職員で確認し、必要な事柄は計画的に改善を行ってきている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者及び職員のサービス向上に向けた思いは深く、自己評価についても一人ひとりがこれまでの取り組みを振り返る機会と位置付け、真摯に取り組んだ。また、今後の取り組みに対する思いを新たに等、有意義な取り組みとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一度開催される運営推進会議には、各方面からの参画を得て、ホーム運営の透明性を図るとともに、利用者のサービス向上に向けた機会と位置付け、活発な意見交換と情報交換が行われている。今後もこれまでの取り組みが継続されるように期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームと利用者家族との関わりは深く、家族が何でも言えるような雰囲気づくりに努めている。利用者や家族からの要望や意見等をホームとして大切に受け止め、それを運営に反映させていくように考えている。利用者、家族、職員での宿泊旅行も行い、利用者や家族の絆を大切に考え、何より利用者本位のサービス提供に繋げるあらゆる取り組みを実践している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との関わりはホーム開設以来良好であり、交流も深まっている。利用者の生活の幅を広げるためにも、地域や地域住民との連携は不可欠のものと考えており、日常生活の中でも、自然な交流が行われている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者に対する一人ひとりに応じた必要な適切な支援が提供できるように「認め合い」「支えあい」「高めあい」を理念とし、利用者が安心して充実した生活ができるように努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員に対し、理念の実現を目指して意見交換を繰り返し行いながら、常に今以上のサービス提供を行うように努めている。管理者及び職員の意識も高く、何事も情報を共有していく姿勢で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設準備段階から地域の住民等に期待され、開設後は地域活動、子ども会活動等に積極的に参加する他、日常的に地域住民との交流が行われている。野菜の差し入れ、ボランティア等の定期的な訪問等、地域の介護相談等にも柔軟に対応している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の実施の意義を職員が全員理解しており、これまでの取り組みを振り返りながら、それ以上の取り組みに繋げていく姿勢が強く感じられる。時間をかけて、有意義に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度は定期的開催し、利用者家族や市職員、地域民生委員等が活発に意見交換している。ホームの運営状況等を伝えるとともに、利用者の生活の質の向上のために意見を得たり、地域行事の紹介等が行われている。また、内容についても職員に伝えられ、利用者のサービス向上に繋げようとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市(職員)との連携は密接に行われ、毎月ホーム便りの届ける際には、具体的な課題や問題等を話し合っている。また、市職員からも相談を寄せられる等、市職員実習生の受入れや、講師役も引き受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者と家族の絆を大切に考え、定期的に連絡するようにしている。家族の訪問時にも、利用者と一緒に過ごす時間を大切にする他、毎月ホーム便りを作成し、送付する際には、一人ひとりに言葉を添えて日常の様子を伝えるようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問も多く、自然な雰囲気の関係の中で、運営に対する意見や意向、不満や苦情等を把握し、それが反映されるように取り組んでいる。些細な事柄も把握し、改善と試行を繰り返し行い、より良い運営に繋げていくように取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を防ぐ為、労働条件の改善、給料の改善、福利面、健康面に幅を持ち対応しているが、生じた場合は引き継ぎも行える様に新旧ダブル勤務の期間を取ったり、研修をしっかりと行う等、努め利用者へのダメージを防ぐように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	利用者本位のサービス提供を行うには、職員の質の向上が不可欠との考えから、職員一人ひとりが良く年度の研修(資格取得)計画を策定し、ホームが全面的に支援する仕組みが確立している。また、介護業務に関する資格だけでなく、得た資格等に手当を支給する等の仕組みも設けられている。職員の意識も高い。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は県域事業者交流の中心的な役割を担う他、定期的に市内及び近隣市のホームとの連絡を行い、隔月の定例連絡会や研修実施、合同運動会等を行っている。職員間での交流も進めており、様々な場面で情報を共有しようとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望があると、利用希望者と家族により事前見学を促し、必要に応じた体験利用を踏まえて、納得したうえで利用に繋げている。併設している共用デイも活用し、利用者がサービスを少しずつ体験し、慣れてもらう取り組みをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の様子、生活暦の中から利用者が自信をもって行うことの出来る事柄について、主体的に活動できるように支援している。出来る限り利用者寄り添うことで、ともに感動し合い、支えあう関係が確立している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を把握するように取り組んでいる。利用者との信頼関係が不可欠との考え、利用者寄り添い把握した事柄は記録し、職員間で共有するようにしている。家族アンケートも定期的に行っている。表現が困難な利用者に対しても、仕草や表現等で把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援計画は利用者の希望を第一に考え、家族の意向、医師の意見などを聞き、個別担当職員、ケアリーダー、ケアプラン作成担当者話し合いながら策定し、日常生活がマンネリ化しないように工夫して策定している。利用者本位の生活を送れるように、また、充実するようにを念頭に策定している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画は定期的に3ヵ月ごと確認し、ケア会議で見直し、評価を行っている。また、随時の見直しも行われ、対応出来ない変化が生じた場合には家族とも相談し、当面の計画を策定するとともに全ての職員で取り組むようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム機能を十分に理解し、柔軟に迅速に対応するようにしている。職員は利用者の何気ないつづきも心に留め、必要な時に必要なサービスが行えるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診支援を適切に行っている。かかりつけ医のいない利用者には、ホームに理解ある病院を紹介する等、柔軟に対応している。毎日、バイタルチェックを行い、必要な都度その状況をかかりつけ医に伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族の意向を踏まえ、医師や職員等と連携を図って対応するようにしている。一人ひとりに応じた対応を図る旨の方針を職員が理解し、終末期対応をはかることとしている。これまでも対応した実績がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の対応は一貫して利用者の意志を尊重し、人生の先輩として敬った対応している。利用者の尊厳を冒すことなく、羞恥心に配慮した支援が行われている。また、個人情報の保護の仕組みも定期的に確認し、その取扱いにも留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や意向、生活歴を利用前から把握し、一人ひとりのペースに応じたその人らしい生活が継続して送れるように十分な配慮がされている。充実した生活を送れるように、職員が意図的に働きかけることもあるが、利用者の意向に沿った生活を送れるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立も利用者とともに好みに沿って一緒に考えている。時には利用者が得意とする料理を作って貰ったり、日常的に準備や調理、片付け等も一緒に行っている。ゆっくりと利用者のペースに合わせて、職員も一緒に席で会話を楽しんで食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の体調によるが、時間帯、回数、順番、湯温など全て利用者の希望に応じている。入浴を拒む等不安定な場合も無理強いすることなく、タイミングをみてすすめている。入浴を楽しめるように、入浴剤の使用や季節のゆず湯等も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内で行われる事柄(洗濯干し、とり込み、たたみ、配膳、鶏のえさやり、草取、水やり等)が、利用者の中で自然体で決められ、職員とともに楽しく行われている。一人ひとりの趣味等の取り組みにも積極的に支援している。毎日の生活の充実を図ることを念頭に弾力的な支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩等、日常的に利用者の希望に添って外出支援が行われている。季節や天候等により、自動車も用いて外出する等もしている。自宅に帰宅したい願望の強い利用者への外出への付き添いや長距離に及ぶ外出への同行も柔軟に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	閑静な住宅地と茶畑に隣接したホームなので、夜間8時～翌朝7時までは出入口の施錠は行うが、鍵をかけることの弊害を理解し、日中の施錠は一切行われていない。利用者の外出についても、職員の見守りの他、近隣住民の理解も得て、温かく見守られている様子である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練実施計画書を作り年1回行っている。訓練の際には、近隣住民の協力も得て実施している。災害時に対応できるように非常用倉庫を設置し、非常用物品が用意してある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎回確認し、記録している。栄養のバランスにも気を配り、職員が全員で確認しながら支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に暖かな家庭的な雰囲気、明るい共用空間である。トイレや浴室の使い勝手も良く、脱衣所、洗濯室は利用者の要望に沿って使い勝手の良いように設置されている。季節の花や利用者の作品の絵画、陶芸品も飾られ、やすらぎのある共有空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具類は使い慣れたものが持ち込まれ、個性ある居室となっている、一人ひとりの個性溢れる居室となっている。		